

授業改善推進プラン <社 会 科>

(社 会) 科における令和元年度授業改善推進プランの検証

取り組みにおける成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 白地図や資料集などを活用して作業的な問題演習、プリントや地図さらに視覚的資料・デジタル教材を用いながら学習内容を精選することにより生徒の「知識・理解」を高めることができた。 ・ 「資料活用の技能」については、地理においては地図帳や視覚的資料・デジタル教材を活用し、地図を見ながら重要事項の意味と場所を学習する授業を展開したことや、歴史的資料とデジタル教材とさらに地図帳などの地理的資料をあわせて併用して歴史的事象のおおまかな流れをまとめることにより、全般的には「資料活用の技能」を高めることに取り組んだ。第2学年では一定の成果が見られたが、第3学年では成果が不十分であった。 ・ 「社会的な思考・判断・表現」については、昨年度と同様に身近な事象や人物・資料を活用し他の時代との関連に注目させながら自分の考えを自分の言葉で発表・討論する場を設定し、学力を高めることができた。 ・ 以上のような取り組みをし、第2学年では十分な成果が見られたが、第3学年の「資料活用の技能」の成果が不十分であったので、特に重点的に授業改善に取り組むことが課題である。
---------------	---

(社 会) 科における調査結果の分析

内 容 別 結 果 の 分 析	<ul style="list-style-type: none"> ○ 社会科全体の平均正答率は、第1学年では目標値より3.5ポイント上回り、第2学年では2.3ポイント上回っている。第3学年では3.2ポイント上回るという結果が出ている。 ○ 地理的分野では第1学年の「世界の中の国土」「日本の食料生産」の項目は目標を上回っているが、「日本の工業生産」では下回る項目がある。第2学年は「世界の地域構成」の項目で目標値より上回っているが「世界の諸地域」の項目では目標を下回る項目が多い。第3学年の「日本の諸地域」「身近な地域の調査」以外は目標値を上回っている。 ○ 歴史的分野は第1学年の「日本国憲法」に関する項目については目標値より上回っている。第2学年の「古代までの日本」は下回っているが、第3学年の「江戸時代」以外の項目は目標値を上回っている。
観 点 別 結 果 の 分 析	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「社会的事象への関心・意欲・態度」は目標値から見ると、第1学年は4.5ポイント下回り、第2学年は0.7ポイント上回り、第3学年は1.2ポイント下回った。 ○ 「社会的な思考・判断・表現」は目標値から見ると、第1学年では3.2ポイント下回り、第2学年では0.3ポイント上回り、第3学年では1.7ポイント下回った。 ○ 「資料活用の技能」は第1学年では2.2ポイント上回り、第2学年とも0.5ポイント目標値を上回ったが、第3学年では0.3ポイント上回っている。 ○ 「社会的事象に対する知識・理解」は目標値から見ると第1学年は0.7ポイント上回り、第2学年は0.6ポイント下回り、第3学年は0.4ポイント下回る結果となっていて第2・3学年では改善の必要がある。

調査結果に基づいた授業改善のポイント

- 1 学年：「社会的事象に対する関心・意欲・態度」と「思考・判断・表現」を高めるため、視覚資料（デジタル教材や実物模型など）を使うとともに、単元ごとのワークシートを宿題とし、既習事項を含めた小テストなどで向上を図る。
- 2 学年：「社会的事象についての知識・理解」を高めるため、デジタル教材などを使い資料の比較によりポイントを発見させるなど資料を読み取る学習内容の理解に重点を置いた授業を実践していく。
- 3 学年：「社会的事象に対する知識・理解」をさらに高めるため、単元ごとのワークシートを宿題にしたり問題演習を授業内で実践したりして理解を深め、テーマごとの小テストなどにより向上を図る。

（ 社 会 ） 科の授業改善策

- 1 学年の「社会的事象に対する関心・意欲・態度」と「思考・判断・表現」を高めるために
 - ・ 地理：白地図や資料集を活用して作業的な問題演習を行うことで、産業の特色を多角的にとらえることができるようにする。地図や視覚的資料・デジタル教材を用いながら学習内容を精選するとともに、テーマごとの小テストを継続して行う。
 - ・ 歴史：プリントやデジタル教材を活用した授業内での演習、様々な観点の小テストなどをくり返し行い、既習事項も確認していくことで、知識の定着と関心・意欲の向上を図る。また、歴史的事象を学習する際に視覚資料（デジタル教材や実物模型・地図帳など）を活用することでイメージを具体的にして地理的分野との融合問題にも対応できるようにする。
- 2 学年の「社会的事象についての知識・理解」をさらに高めるために
 - ・ 地理：地図帳やデジタル教材を活用し、地図を見ながら重要事項の意味と場所を学習する授業を展開する。「日本の諸地域」の学習を重点的に行いながら、我が国全体との関連についての理解を深めていく。生産や輸出入などの複数のグラフ・表を作成・比較する場面を取り入れながら授業を展開し、資料活用の技能向上に取り組む。
 - ・ 歴史：歴史的資料やデジタル教材とあわせて地図帳をはじめとする地理的資料も活用して理解を深め、資料に親しませる。さらに時代や歴史的事象のおおまかな流れも資料を使ってまとめられるようにし、知識の定着も図る。
- 3 学年の「社会的事象に対する知識・理解」「資料活用の技能」をさらに高めるために
 - ・ 歴史：身近な出来事の資料やデジタル教材などを活用しながら、事象と主要人物を結び付ける活動を取り入れた授業や資料を取り入れたワークシートを中心とした授業を展開する。大まかな歴史の流れをペアワークで確認し、「江戸時代」などの資料を含めた小テストを繰り返し実施することにより、理解を深めさせる。その時代の特徴を概観させながら、自分の言葉で表現して発表・討論する場面などを設定する。
 - ・ 公民：身近な出来事を導入として扱ったり、新聞記事を活用して社会的事象や人物を取り上げて、小グループなどによる発表や討論などをする場面を増やすことにより、自分の考えを自分の言葉で表現することを繰り返し行う授業を設定する。多くの統計資料や視覚的資料に触れさせ、資料の読み取り能力を高める。